

# 私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。

コロサイ4:3

## 2014(26)年 週 報

11月23日  
第4聖日  
3379号

「聖書の常識」

### 聖言

「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。そのようなものは、人のいいつたえによるものであり、この世に属する幼稚な教えによるものであって、キリストに基づくものではありません。」コロサイ2:9

礼拝の恵み 第一八章 第七部 礼拝の仕方  
第一節 礼拝は霊的であるべきである

イスラエルに対する神の勧告は「善を求めよ。悪を求めな。そうすれば、あなたがたは生き、あなたがたは言うように、万軍の神、主が、あなたがたとともにおられよう。悪を憎み、善を愛し、門で正しいさばきをせよ。万軍の神、主は、もしや、ヨセフの残りの者を、あわれまれるかもしれない。」(アモス五ノ一四、一五) というのであった。立場と状態との間、信条と行動との間、くちびると生活の間、信仰と態度との間、告白と表現とのあいだ、それらの間に矛盾のないことを神は求められる。ダビデが「ああ、あなたは心のうちの真実を喜ばれます。」(詩篇五一ノ五) イザヤを通して神はイスラエルの表裏ある言動を次のような鋭い言葉で暴露された。「『あなたがたの多くのいけにえは、わたしに何になるう。』と、主は仰せられる。『わたしは、雄羊の全焼のいけにえや、肥えた家畜に飽きた。雄牛、子羊、やぎの血も喜ばない。あなたがたは、わたしに会いに出て来るが、だれが、わたしの庭を踏みつけよ。とあなたがたに求めたのか。もう、むなしいささげ物を携えて来るな。香の煙 それもわたしの忌みきらうもの。不義と、きよめの集会、これにわたしは耐えられない。あなたがたの新月の祭りや例祭を、わたしの心は憎む。それはわたしに重荷となり、わたしは負うのに疲れ果てた。あなたがたが手を差し伸べて祈っても、わたしはあなたがたから目をそらす。どんなに祈りを増し加えても、聞くことはない。あなたがたの手は血まみれだ。』(イザヤ一ノ一一〜一五)

(A pギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru\_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一四年一月一日午前一〇時 礼拝 山本牧師

「バプテスマ」

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしは天においても、地においても、一切の権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としないさい。」

(マタイ二八ノ一八、一九)

イエス様の言われるバプテスマは、ユダヤ教のバプテスマと根本的に違う。バプテスマは救われるためにするのでなく、救われた証しのためにバプテスマを受けます。マルコ一六ノ一六「信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じないものは罪に定められます。」と優先順位は信仰が先です。バプテスマとは「没入させる、浸す」と言う意味です。目には見えない神の子となる過程を目に見えるように表したのです。バプテスマは師に従う者となること、師の教えに従う者になることの象徴です。もう一つは教会の一員であることです。

エチオピアの宦官にピリポはイザヤ五三から始めて、イエスのことを彼に宣べ伝えた。「道を進んでいくうちに、水のある所に来たので、宦官は言った。『御覧なさい。水があります。私がバプテスマを受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。』」(使徒八ノ二五)

コルネリオの一族に対してペテロは「しかし、神はこのイエスを三日目によりがえらせ、現れてくださいました。しかし、それはすべての人々にはなく、神によって前もってえらばれた証人である私たちにです。私たちは、イエスが死者の中からよみがえられて後、ごいっしょに食事をしました。イエスは私たちに命じて、このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められたかたであることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように、言われたのです。イエスに

ついては、預言者たちもみな、この方が信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる、とあかししています。」ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでペテロはこう言った。「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水を差し止めて、この人たちにバプテスマをうけさせないようにすることができません。」(使徒一〇ノ四〇)

ピリポの看守「そして、ふたりを外に連れ出し、て、『先生方、救われるためには、何をしなければなりませんか。』と言った。ふたりは、『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。』と言った。そして、彼とその家族全部に主のことばを語った。看守は、その夜、時を移さず、二人を引き取り、そのうち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。」(使徒一六ノ三〇) 水のバプテスマを受けて何十年たつておられる方がいます。しかし、聖霊と火のバプテスマを受けた方はおられるでしょうか。ご存知でない方もおられるのではないのでしょうか。イエス様は復活され弟子に現れ昇天されるとき、「ヨハネは水でバプテスマを受けたが、間もなく聖霊のバプテスマを受ける。」と言われました。またコルネリオの家の者はペテロの話を聞いた時聖霊が注がれました。その後水のバプテスマをうけました。バプテスマは水の中に沈められるのを衆人環視のもとで行なわれます。しかし、聖霊と火のバプテスマは神様と自分と個人的に受けるのです。受けているのに知らない方もいますし、受けていない

のに受けているという人もいます。なぜそのように曖昧なのかという、目に見えし、個人的な体験だからです。しかし、目に見えないから、個人的だからといって、否定されることはありません。なぜなら、聖霊のバプテスマを受ける前と後の違いは自他とも雲泥の差であるのがわかります。なぜなら人間の力と神の力の違いだからです。昨夜私は夢を見ました。足達先生が私に「聖霊のバプテスマをうけましたか。」と言われました。私は夢の中で曖昧な返事をしました。起きてから祈りました。そのときイザヤ六の御言葉が与えられました。「すると、私のもとにセラフイムのひとりが飛んできたが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」(イザヤ六ノ六)。バプテスマは不可欠です。なぜなら、バプテスマによって、イエス・キリストというお方とそのみ業に信頼する決断が強められ、公に信者からなるキリストの共同体である教会の一員と認められるのです。イエス・キリストの弟子となるということは、まず第一にイエス・キリストのご人格とそのみわざ、すなわち福音を信じることであり、公にバプテスマを受けることにより、イエスご自身とその教えと一つとされ、信仰共同体の一員となるのです。バプテスマはイエスを喜ばすことである。それでバプテスマを勧めない教会。バプテスマを受けようとしていない求道者がいるということはイエスは悲しまれる。なぜなら彼は「父と子と聖霊の名によりバプテスマを授け」と弟子たちに命じられたのです。(マタイ二八)

二〇一四年一月一九日午後七時 祈禱会 山本牧師

「本当に怒ったぞ」(エゼキエル連講二二回)

「わたしがあなたがたを国々の民の中から連れ出し、その散さ

れている国々からあなたがたを集める時、わたしは、あなたがたをなだめのかおりとして喜んで受け入れる。わたしは、諸国の民が見ている前で、あなたがたのうちに、わたしの聖なることを示す。」(エゼキエル二〇ノ四一)

新しいイスラエルのために新しいエルサレムで主に仕える時、主は彼らを喜んで受け入れ、また彼らの最上のささげ物が受け入れられる。人々が御自身のみこころにかなう聖なるものとして受け入れられ、また自分たち生きた供え物としてささげる喜びと献身のときである。この預言は、イエス・キリストが「真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。」(ヨハネ四ノ二三)。と言われたように、キリストの教会において実現した。新約の神の民である私たちは、主に無条件で受け入れられたことを感謝しつつ、ますます自分自身を、聖い、生きた供え物としてささげ、霊的な礼拝をするべきである。(ローマ一二)。人々のささげる「最上のささげ物」とは彼らの献身を指すとも考えられるが、預言的には神への最高のささげ物であるイエス・キリストのいけにえを指し示すと考えるべきである。このことは、「あなたがたをなだめのかおりとして喜んで受け入れる。」を、新共同訳のように「なだめの香りと共に」と訳せば、なお一層はつきりする。

主が彼らを約束の地に入らせる時、彼らは主がまことの主であることを知る(三三)。そこで彼らは自分たちのすべての行いを思い起こし、自分たちのすべての悪の故に自分をいとうようになる(三四)。「主が彼らの悪い行いや、腐敗したわざによってなく、ただ主の名によって、恵みによって取り扱ってくださったからである。(三五)。彼らが過去のことを水に流してもらって、新しい民として主に受け入れられたとき、彼らは過去のことを思い悔い改める。真の悔い改めは、一方的な赦しの恵みを受けるときに起こる。